

# 静勝寺報

お施餓鬼お盆の季節となりました。皆様ご清祥にてお過ごしのことと存じます。

今回は施餓鬼会（せがきえ）の話をしめます。施餓鬼会は施食会とも言い、「餓鬼に食を施す」との意味です。「餓鬼」は飢えた鬼、「鬼」は「靈魂」を指し、「飢えた靈魂」、つまり「供養の行き届かない靈魂」を指します。供養の行き届かない靈魂とは皆様方のご先祖様ではありません。皆様方のご先祖様は、日ごろ皆様方がお仏壇で手を合わせ線香やお供物を供え、お墓参りをし、法事や彼岸法要、施餓鬼会法要に参加なさっているのですから供養は行き届いていきます。供養の行き届かない靈魂とは子孫の途絶えてしまった靈魂、忘れさられた靈魂のことです。さらに言えば、生きとし生けるものすべてを指します。

その靈魂に食を施すことは、良い行いであり、良い功徳を積むこととなります。その積んだ良い功徳を自分のものにする事なく、ご先祖様の供養に回らし向ける（めぐらしむける、回向）のです。そこで、ご先祖様に塔婆を上げ、戒名を読み上げるわけです。

その食べ物ですが、一応施餓鬼棚にお供えしてあるご飯や野菜、乾物、供物等がそれにあたるのですが、靈魂は膨大な数になりますから当然足りません。そこで法要で読む「甘露門」というお経の中で呪文みたいなものをとえ、印を結ぶことで供えた食べ物は何万、何億倍にもなるというのです。

通巻

第31号 施餓鬼会  
号 平成30年  
6月20日 発行  
発行所  
〒115-0055 北区赤羽西  
1-21-17 静勝寺  
編集発行人  
高崎忠道

ここで重要なのは、「施すこと」さらにその功徳を自分のものにするのではなく他に振り向けることです。金品に限らず、功徳さえも自分よければよいという気持ちを持て捨てることです。近年、この自分さえよければよいという風潮が広がってきているようです。最近の事件や政治家を見てもその傾向が強くなっています。



カブト虫が境内の木に蜜を吸いに来ました。場所は秘密

アメリカカンフットボール悪質タックル事件の謝罪会見、各種のセクハラ、パワハラ問題、森友、加計学園問題など、一部の人間の身勝手な行為、保身行為が周りを振り回し、傷つけています。むしろよくしやすからと人を殺害し、理不尽な要求に逆らうすべもなく何とか答えようとする幼児を死に至らしめる親など、その極みでしょう。某国大統領と委員長の会談にしても、自国民の為ではなく自らの保身、人気取りのように見えます。これらのことは我々各人にも大なり小なり言えることで、イライラして人や物にあたりちらし、自分に都合の悪いことは隠そうとし、自分本位の意見を人に押し付けようとしています。でも、当たられたものや人は確実に傷つきま

すし、小さな嘘や自分さえよければよいという気持ちがだんだん大きくなっていきます。すると、周りが離れ、自分のまわりに垣根ができ、どんどん生き苦しくなります。あるいは、まわりに迷惑をかけまい、かけられまいとして垣根を作っています。

道元禅師様は、「正法眼蔵（現成公案）」に「仏道をなろうというは、自己をなろうというは、自己をなろうというは、自己をわするるなり」とあります。「自己をなろう」とは、自分のありようを見つめ直すこと。すると自分勝手な気持ちが大きくなっていくことに気づきます。「自己をわする」とは、その自分勝手な気持ちを捨て去ること、少しでも減らそうと努力することです。すると、自然も含め周りに生かされていることに気づき、垣根が小さくなり、楽に生きられるようになります。多少の迷惑はお互い様です。

アメリカカンフットボールの加害選手の謝罪会見は、真に謝罪の気持ちが伝わり、かえって周りをわすれすがすがしい気持ちにさせました。彼は、自己をならうと反省し、保身に走らず他の者のせいにならず自己をわすれられたからこそ謝罪の気持ちが伝わったのだと思います。人は間違いを犯すものですが、その時、いかにすべきかが大切なことなのです。「自己をならい、自己をわするること」で、自ずと為すべきことが見えてきます。

お施餓鬼は、靈魂、生きとし生けるものすべてに施すこと、これは思いやりの心を持つことにほかなりません。この心が何よりの御馳走となります。まずは身近な人に対して、思いやりの心を持ちましょう。

参考文献 稲石文乗「自己をならひ、自己をわするる」

**可睡齋参拝**

4月26日、静岡県掛川市の可睡齋を参拝しました。当日は晴天に恵まれ朝8時に赤羽を出発。バスにて一路可睡齋へ。途中富士山を拝みつつお昼に可睡齋に到着。精進料理をいただき、祈祷法要、山内を拝観しました。可睡齋には、当山弟子 宮島敬蔵師が今春より修行しており、元気に励んでいるようで（大変そうでしたが）安心しました。

その後、油山寺を参拝し、焼津の市場に寄り帰りました。



日本一という可睡齋の有名な東司（便所）



可睡齋本堂前、敬蔵師をまじえて記念撮影



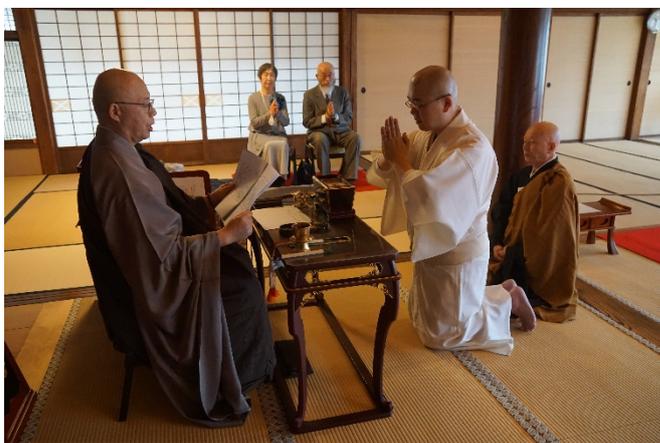
油山寺薬師堂(左)とそこに至る階段(中)と道(右)

**可睡齋(かすいさい)**  
曹洞宗寺院。応永8年(1401)如仲天闇(じょちゅうてんぎん)和尚が久能城内に庵を開いたのを始まりとし、東陽軒と名乗る。その後、十一世仙麟等膳和尚は、以前かくまった恩により浜松城主となった家康より呼び出され、その時寝てしまった等膳和尚に家康が「睡る可(ねてもよいぞ)」と言われ、以来可睡和尚と呼ばれるようになったとのこと。家康の帰依を受け、僧録司(寺院を束ねる役所)寺院となり、江戸時代も東海四ヶ国(駿河、遠江、三河、伊豆)の僧録司として曹洞宗四五〇〇ヶ寺を管理しました。明治時代になると火防の神様として有名な秋葉三尺坊が、衰退した秋葉寺より移り、可睡齋が秋葉総本殿となり現在に至ります。江戸時代より修行道場として、多くの雲水が修行しています。



油山寺方丈、油山寺は行基の開山。孝謙天皇の眼病を直したことから目の霊山と呼ばれて信仰をあつめています。

**宮島敬蔵師得度式**



僧侶になる式を得度式といえます。2月28日、当山本堂にて宮島敬蔵（僧名敬蔵）師の得度式を行い、晴れて僧侶の一步を踏み出しました。師は、富山の生まれで名古屋での大学時代、可睡齋で参禅を体験したそ

うです。東京に居を移し、昨夏より当山の参禅会に参加するようになり、かねてより思っていた僧侶になろうと決心し、その旨を話されました。その決意の堅さを聞き、また大変



奇なことでもあり、私の弟子になることに相成りました。可睡齋で修行したいとの希望もあり、2月初旬より毎朝、始発電車で当山に

通い、着物、衣、袈裟をつけ朝のお勤めに参加、読経、お拝、そして作務と修行に励み得度式を迎えた次第です。その後も当山での修行に励み、何とか3月27日に可睡齋に上山（僧堂に入門）することができました。そして、ちょうど1か月後、我々と会った次第です。

**チャリティーコンサート「祈りの宴」3.11におもいをよせて〜**



3月11日、今回で3回目となるチャリティーコンサートを当山本堂で開きました。板鼻弘子さんによる秋田弁の語り、村手有子さんのバイオリン、高崎美保のピアノ、橋本弥寿子さんのフルートによるミニコンサート。おもひでロマンチカによる楽しいうんちく付きの「みんなで歌おう」コーナーと盛りだくさんの内容で、2回の公演で延べ180人が集まり楽しいひと時を過ごしました。



当日のチケット代から経費を除いた分に、静勝寺や数人の方の寄付金を合わせて20万円を3月27日に「福島民報」に東日本大震災義援金として預託しました。



**横田年昭氏笛コンサート「祈りの神宴」**  
当コンサートも15回目を迎え、今回は昼の部の1回で行われ、横田氏のトリオによる演奏と横田千世子氏の一絃琴の演奏などシンブルなコンサートで、本堂も満杯になりました。



**花まつり**  
4月8日は、お釈迦様の誕生日「はなまつり」です。花御堂を飾り、誕生仏に甘茶をかけてお祝いします。当山も毎年8日の日に生花で飾った花御堂を本堂前においてお参りに来た方々に甘茶を差し上げています。本年は日曜日で晴天であったこともあり200名ほどの方がおいでになり大いに賑わいました。



北区仏教会でも20年ほど前より毎年4月第一土曜日（今年7日）午後、赤羽駅西口広場で花御堂を飾り、甘茶飴を配り、托鉢募金（集まった浄財は北区社会福祉

協議会に義援金として寄付)を行っていきます。以前は、「なつかしい」という方も多かったのですが、最近では、年配の方でも「これはなんですか?どうするのですか?」という方が増えました。ぜひ皆様もご家族や友人などに知らせていただきたく存じます。

### 道灌クラブ来寺



1月26日、道灌クラブの皆さん50名ほどが来山なされ、道灌堂拝観、住職の話聞き、その後本堂で、田辺凌鶴師匠とそのお弟子さんの講談を聞きました。凌鶴師匠は師匠創作の太田道灌の講談をなさいました。

### 都道86号線

経緯 平成25年冬、86号線の説明会があるとの通知を受け会場に行くと、道路建設の是非を問う説明会ではなくすでに決定済みであり、完成までの日程の説明会でした。

86号線は、戦後の復興道路(さらに言えば戦前の軍事道路)として計画されましたが、計画当初よりすでに70数年が経過し、街の様子もすっかり変わり当時の状況と全く異なっているにもかかわらず計画のみが存在し、有名無実化していました。実際、東日本大震災後住宅を建て直した方も多く、その際皆さんは役

所に道路が建設されるか確認していました。ところが、防災という名のもと延焼遮断帯とし急遽道路計画が持ち上がったものです。この道路は、静勝寺南側の台地を掘削して通り、弁天通りをとおり、自然観察公園とスポーツの森公園の間(現在は草地になっている)を抜ける計画で、自然観察公園内のカワセミがくる池も破壊してしまいます。また延焼遮断の効果も薄くむしろ延焼が広がる可能性があります(トンネルがあるため)。等々理由から反対運動が続けてきましたが、用地買収は粛々と進んでいる状況で、計画の撤回を求め裁判を起こすことにしました。このほか、86号線志茂地区を含め、都内各地区で道路反対の裁判を起こしています。

昨年11月に東京地方裁判所に提訴、今春4月11日に第1回の公判があり、原告団長である私(住職)が口頭陳述をしました。当日、原告含め90名の方と裁判を傍聴しました。このような行政訴訟は、傍聴人が多いほどアピール効果があるそうです。次回は、**7月10日午後3時より東京地方裁判所103号法廷**で、どなたでも傍聴できます。ぜひ多くの方に参加頂きたくお願いいたします。赤羽よりバスを出します。下欄参照。

**今後の予定**  
○施餓鬼会 七月九日(月) 午後1時 受付開始  
1時半 落語 古今亭ちよりん  
2時 護持会総会  
引続き 法話 鶴岡篤裕老師  
3時 施餓鬼会法要

**落語 古今亭ちよりん**  
群馬県出身、駒澤短大卒、会社員のうち古今亭

菊千代師匠に入門、現在二ツ目。  
**法話 青梅市竹林寺鶴岡篤裕老師**  
本年も、東京の特派布教師(禅師様に代わり全国を回って法話をする)である鶴岡老師にお願いしました。

○棚経 お盆のお経  
七月十三日(金) 十四日(土) 都内、埼玉南部  
十五日(日) 都下西部  
八月十三日(月)、十四日(火)  
七月に伺う以外の地域  
毎年伺っているお宅には、日時をお知らせします。新盆等、本年から新たに御希望の方はご連絡お待ちしております。

○道灌まつり(太田道灌公の命日)  
七月二十六日(木) 午後4時半 法要 道灌堂  
5時 おまつり 階段下参道、夜店  
○秋季彼岸会法要九月二十三日(土、中日)  
午前11時 法話 引き続き彼岸会法要

○坐禅会 毎月第1土曜 午後3時~5時、  
○写経会 毎月第2土曜 午後3時~5時  
○みんなで歌おう 毎月第3土曜(7、8月は第4土曜) 午後2時半~4時  
○日曜坐禅会、朝の会  
毎週日曜朝6時 坐禅会、  
6時45分~8時 朝の会(読経と話)

○86号線道路裁判  
バス 7月10日午後1時頃出発(予定)  
イトーヨーカドー裏道路集合  
片道500円

直接、東京地方裁判所103号法廷に午後3時までに頂いても大丈夫です。  
東京地方裁判所は、  
地下鉄霞ヶ関駅A1  
出口すぐです

編集後記、道路問題やら寺の行事やらとまた半年があつという間でした。